

保護者各位

松岡中学校
校長 中島文男

平成22年度 学校評価報告

朝晩はまだ寒さが身にしみるものの、日中は日に日に暖かさが増し、確実に春は近づいています。現在、中学校では、3年生が県立高校入試に向けて最後の頑張りを見せています。2年生は立志式に向けて、式典や学年歌の練習など最後の仕上げに入っています。1年生は進路学習が本格的に始まり、図書やビデオなどで職業調べに取り組んでいます。

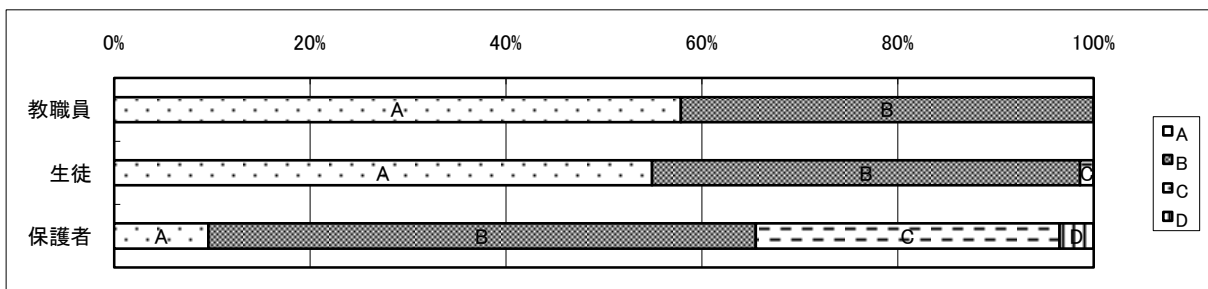
3年生がすばらしい卒業式を迎えられるように、また、1、2年生にとって夢あふれる新学年になるように、生徒と教職員が一丸となって頑張っています。どうかご支援、ご協力をお願いいたします。

さて、12月の学校アンケートへのご協力ありがとうございました。結果がまとまりましたのでご報告いたします。

グラフは、教職員の評価、生徒の評価、保護者の評価の3つのグラフで表し、比較しています。これらの結果を分析し、課題を明確にさせ、次年度の教育計画作成に役立てていきます。

(※AとBの項目を合わせて80%以上であれば概ね良好という判断になります。)

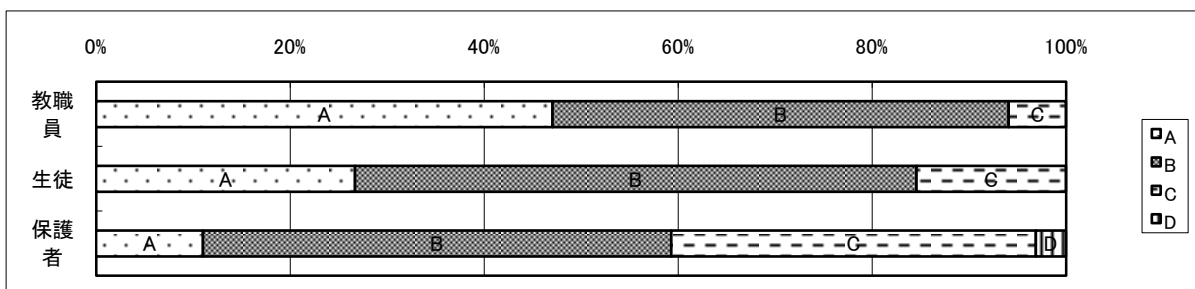
1. 全ての生徒にとってわかりやすく達成感のある授業をする。



□分析 ・教職員はA「毎時間わかりやすい授業をして生徒に達成感を与える努力をした」B「だいたいわかりやすい授業ができた」という答えが100%となっており、教職員の授業に対する意識の高さが伺われる。生徒もA「いつもわかりやすく教えてくれる」B「時々工夫してわかりやすく教えてくれる」という回答が99%と高かった。しかしながら、保護者は、ほぼ理解できていると考える回答が65%でやや低かった。

□改善 ・保護者の満足度が低いのは、テストの結果をもとにしているからであろう。「わかりやすい授業」で、その時は理解しても、それが定着するためには反復練習が必要である。そこで来年度より、授業時間のみならず、家庭での反復練習を促すため、漢字や計算など基礎的な事項の習得を目指すドリルコンテストを単元テストのない月に帰りの会の20分間を使って行う。

2. 単元テストへの取り組み

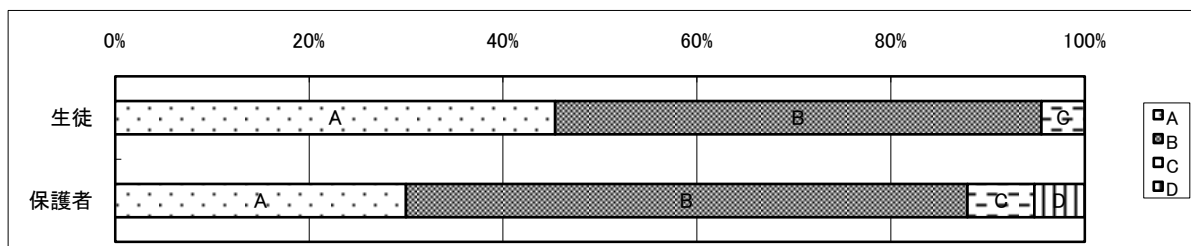


□分析 ・教職員は単元テストの作成に当たっては、評価規準に基づき作成している。生徒は、「単元テストに向けて全力で勉強した」「だいたい復習してテストに臨んだ」が、

85%で、多くの生徒が頑張ったと評価している。本年度は、単元テスト1日目の午後は授業をカットし、二日目に向けての家庭学習時間を確保したこともあり、生徒の評価は10%以上向上している。しかし、保護者は生徒の取り組みに59%しか満足しておらず、家庭学習が十分にできていないと判断している保護者が多いようである。

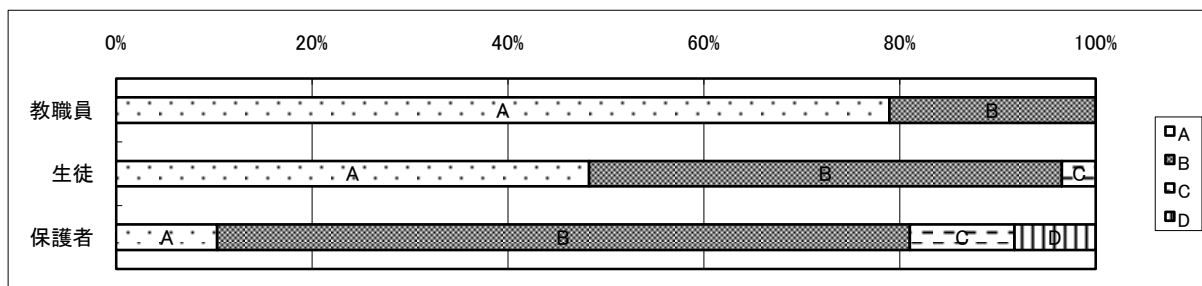
- 改善 ・昨年度に引き続き、テスト1週間前から部活動を中止して、家庭学習が計画的に進められるように指導を行っている。今後もさらに家庭との連携を強めながら、日々の学習とともにテスト前の学習の取り組みを指導していく必要がある。

3. 学習しやすい環境



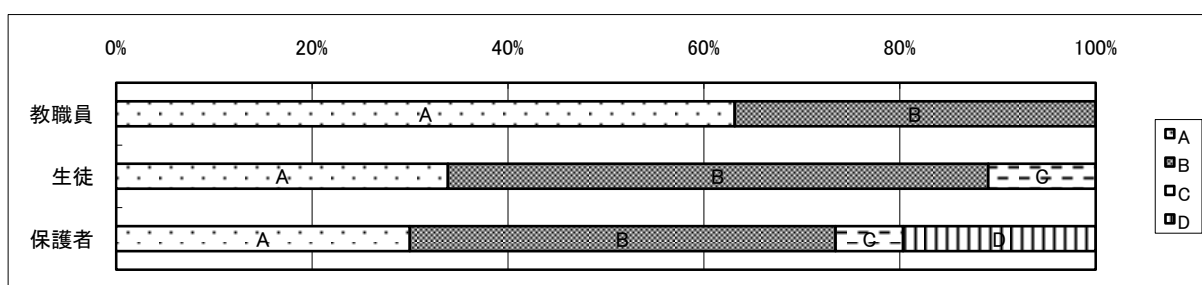
- 分析 ・生徒も保護者も松岡中学校は学習しやすい環境であると評価している。特に生徒の評価は昨年度より10%以上高くなっているのは、トイレの改修や3年生教室へのエアコンの設置などが行われたためと考えられる。
- 改善 ・生徒に比べて保護者の評価が若干低いのは、前述のような学校設備の充実を知らないことが考えられる。今後は保護者への広報に努めていきたい。

4. 明るい挨拶と正しい言葉遣いができる生徒の育成



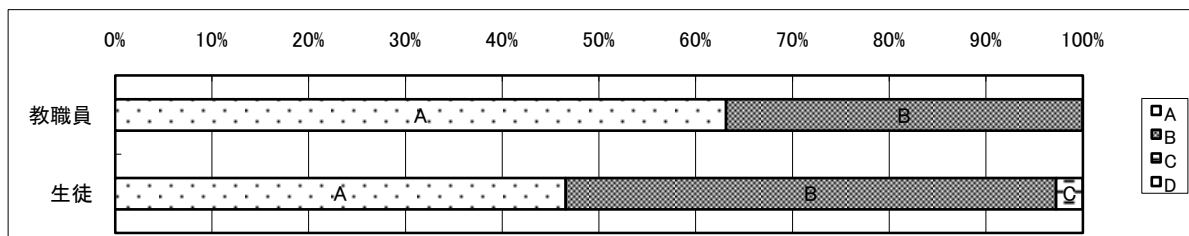
- 分析 ・教職員は100%、生徒が正しくない言葉遣いをした時、注意して正しい言葉遣いを教えていると回答している。生徒も97%が「正しい言葉遣いができている」「だいたい正しい言葉遣いができている」と回答しているが、約10%の保護者は「たまにしか正しい言葉遣いできていない」と感じている。これは、生徒の学校での言葉遣いと家庭での言葉遣いの違いの表れではないかと考えられる。
- 改善 ・挨拶や言葉遣いは基本的な礼儀であり、人間関係を築き円滑な社会生活を営む上で大切なコミュニケーションでもある。学校と家庭が連携を取りながら、心の教育を含めて今後とも指導していきたい。また、特に挨拶については、生徒会が討論の議題として取り上げたり、毎朝玄関で挨拶運動を行ったりするなど力を入れているので、来年度も継続して取り組んでいきたい。

5. 生徒に言葉がけをし、生徒のよさに気づく。



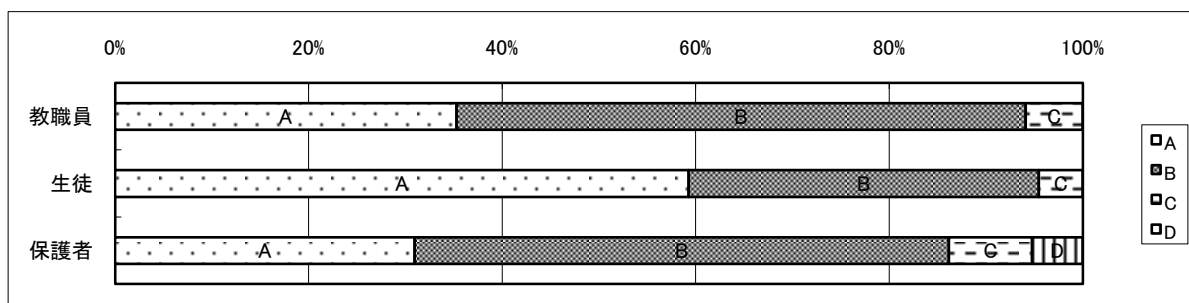
- 分析 ・全ての教職員が、生徒に話しかけ生徒理解に努めていると回答している。生徒も89%が「よく話しかけてくれる」「時々話しかけてくれる」と回答している。11%の生徒は「先生はたまにしか話しかけてくれない」と感じているが、昨年度は18%だったので、改善傾向にある。
- 改善 ・今後も、一人一人の生徒に1日1回以上は言葉がけをし、生徒にとって話しやすい存在、相談しやすい存在として、常に向かい合っていきたい。また、定期的に個人面談を設定するなど、全ての生徒が教師と話ができる場を作ることも必要である。

6. 全職員で学校全体の生徒を育てる。



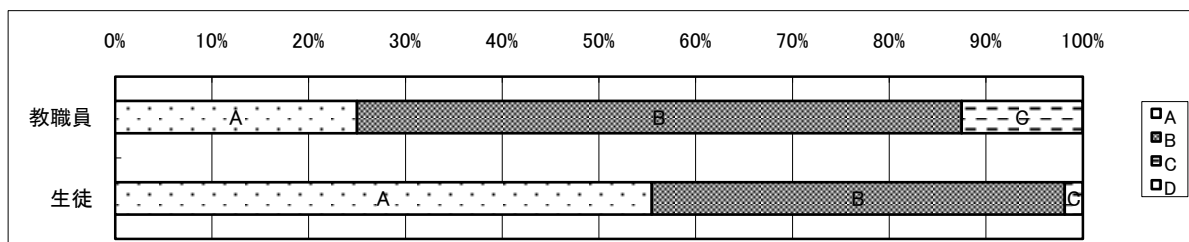
- 分析 ・教職員は100%、生徒は97%と高い水準であり、教師と生徒の信頼関係が構築されている。
- 改善 ・今後も、教師と生徒の信頼関係が崩れないようにこれまでの取り組みを継続したい。

7. 部活動を通して、健全な生徒を育成する。



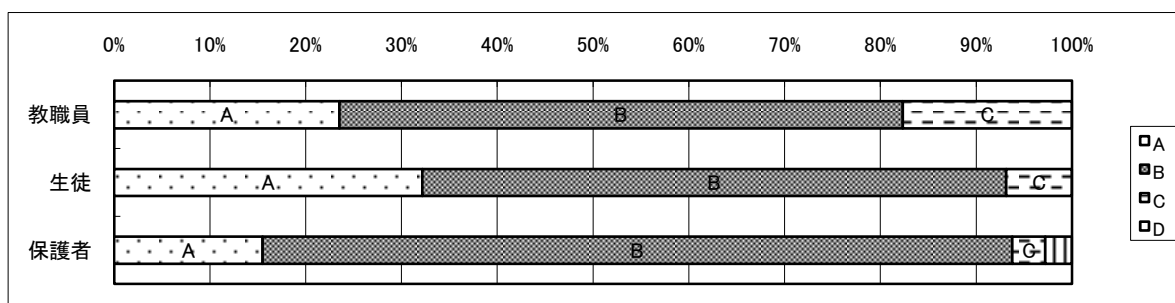
- 分析 ・教職員も生徒も、目標を持って積極的に部活動に取り組んでいる姿が数値に表れている。また、保護者の86%が、生徒の部活動への取り組みを高く評価している。
- 改善 ・部活動と学習の両立を図り、技と心を磨きながら、人間関係の幅も広げていけるように今後も支援していきたい。

8. 一人一人の生徒と向き合い将来への夢や希望がもてるようにする。



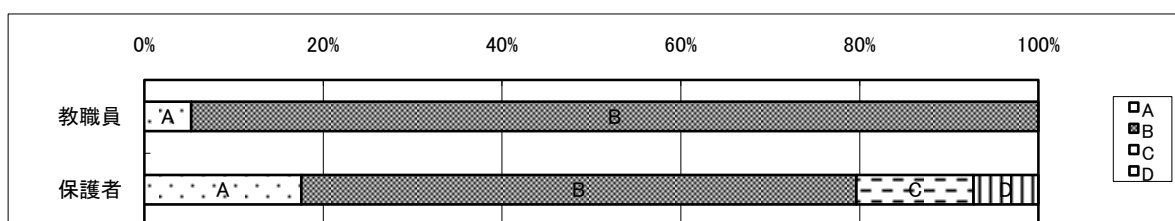
- 分析 ・生徒の半数以上が、親身になって話を聞いてもらい学校生活への意欲が高まったと回答しており、個人面談が有効に働いていることが分かる。進路指導については、総合的な学習の時間を中心に計画的に行っている。その成果が、生徒の学校生活に対する意欲に表れているとも考えられる。けれども、教職員の12パーセントが十分に話を聞くことはできなかったとしており、多忙のため十分に個人面談の時間が取れなかったことが分かる。
- 改善 ・日々の多忙感の中で、一人一人の生徒とゆっくりと語り合う時間を取ることは難しいが、生活ノートや教育相談週間等を活用して、生徒の思いを真摯に受け止めて対応していきたい。

9. 各種のおたよりで学校の様子を伝える。



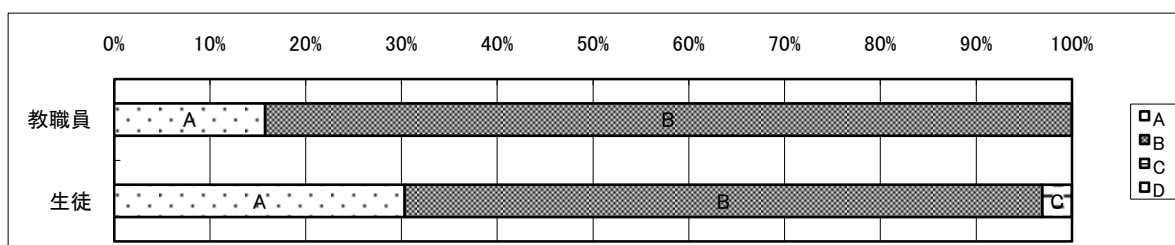
- 分析 ・教職員の82%が、月1回以上のペースでおたよりを出している。それに対して、保護者の94パーセントが学校の様子が分かると評価している。
- 改善 ・おたよりには、生徒の感想や保護者からの一言メッセージを掲載し、学校や生徒の様子を詳しく伝えたり、他の保護者の思いを知る場としたりするなどして活用していきたい。

10. 保護者との緊密な信頼関係を築く。



- 分析 ・全員の教職員が、保護者から理解を得ていると感じているが、保護者の13%が信頼できるとまではいかないと回答しており、意識の隔りがある。
- 改善 ・気がかりなことは、直接、間接（生徒を通じて）的に、保護者とコミュニケーションをとりながら解決を図り、信頼される学校づくりに努力していく。

11. 話し合い活動を通してコミュニケーション能力を育てる。



- 分析 ・教職員は100%、生徒は97%が話し合い活動が授業に取り入れられていたと回答しており、コミュニケーション能力を育てるため、積極的に話し合い活動が行われたことが分かる。
- 改善 ・今後も、話し合い活動が、高め合い深め合う活動につながるような場面設定を、諸活動の中に工夫して取り入れていきたい。

----- 切り取り -----

保護者から一言（学校評価）

（お名前

）